

あおもり花き産地戦略方針推進のための

# 花き栽培の手引き

(戦略品目改訂版)

本書は、平成22年10月に策定した「あおもり頑張る花き産地戦略方針（平成22年度～25年度）」において、戦略品目として位置づけた7品目の各論について、平成13年3月に発行した「花き栽培の手引き」の内容を改訂したものです。

○掲載品目：キク、バラ、トルコギキョウ、アルストロメリア  
アスター、グラジオラス、デルフィニウム

上記以外の花き栽培品目の各論及び共通事項（土壌肥料、鮮度保持、病害虫）等については、平成13年3月発行の「花き栽培の手引き」（下記ホームページに掲載）を御活用ください。

<http://www.applenet.jp/dataout/167/1/1.html>

平成23年3月

青 森 県

# はじめに

本県の花き生産は、夏季冷涼な気象条件を生かし稲作や野菜との複合経営の一環として農業経営に導入され、昭和62年頃から急速に発展してきましたが、近年では、花の国内需要の低迷や輸入の増加による価格の低下傾向、燃油価格の高騰による生産コストの上昇などの影響を受け、全国と同様に平成10年をピークに生産規模の縮小や生産者の減少、産出額の減少が続き、非常に厳しい状況となっています。

しかし、花き生産は、社会の少子高齢化が進む中で、女性や高齢者にも容易な軽労働の作物であり、また高収益作物として米や野菜と組合せることにより、農家所得の維持・向上に寄与できることから、本県農業において重要な位置づけとなっています。

このような状況を踏まえ、県内花き産地が着実に維持・発展するためには、県内生産者のみならず全ての花き関係者が一丸となって、目標を持って花き産地づくりの課題に取り組み、新たな視点で花きの生産・流通・販売に努めることが重要と考え、本県の新たな取組方針として「あおり頑張る花き産地戦略方針」を平成22年10月に策定しました。

この方針では、県産花きの中で産出額の多い重要な品目と、近年、生産・出荷が順調に拡大し今後も安定した需要が期待できる品目であるキク、バラ、トルコギキョウ、アルストロメリア、アスター、グラジオラス、デルフィニウムの7品目を戦略品目として位置づけ、本県が最も得意とする夏秋期を中心とした花色の良さ、日持ちを武器に更なる生産拡大を図ることとしています。

そこで、これら戦略品目の栽培技術の指導強化を図るため、地方独立行政法人青森県産業技術センター農林総合研究所などにおける最新の研究データをもとに、平成13年3月に作成した「花き栽培の手引き」の見直しを行いました。

花き産地づくりの関係者の皆様に、この新たな手引きを大いに活用いただき、戦略方針の目標年度である平成25年には、本県花き生産の減少に歯止めがかかり、増加に転じる産地づくりに御尽力くださるようお願いいたします。

終わりに、執筆並びに編集に御協力をいただきました関係機関、団体並びに担当者各位に対して深く感謝申し上げます。

平成23年3月

青森県農林水産部農産園芸課長 長根 誠二



# 目 次

はじめに

キ　　ク		トルコギキョウ・・・・・・・・・・・・・・	76
輪ギク・・・・・・・・・・・・・・	1	アルストロメリア・・・・・・・・・・・・・・	90
スプレーギク・・・・・・・・・・・・・・	30	アスター・・・・・・・・・・・・・・	105
小ギク・・・・・・・・・・・・・・	39	グラジオラス・・・・・・・・・・・・・・	115
バ　　ラ		デルフィニウム・・・・・・・・・・・・・・	128
土耕栽培・・・・・・・・・・・・・・	46	（県オリジナルデルフィニウム	
養液栽培・・・・・・・・・・・・・・	62	「スピアーシリーズ」の栽培マニュアル）	

執筆及び編集者一覧

## 花き栽培の手引き使用上の統一事項

- 1 記載品目の呼称はカタカナで統一する。
- 2 作型図に示す記号は以下のように統一する。

播種	○	電照期間	☆——電照——☆
挿し芽・挿し木	∨	シェード期間	#——シェード——#
仮植	△	トンネル被覆期間	∩——トンネル——∩
定植	◎	ハウス等加温期間	Ω——加温——Ω
鉢上げ	◇		
摘心	×		
苗冷蔵期間	★-----★		
球根・株冷蔵期間	●-----●		
苗床期間	□~~~~~□		
本ほ期間	—————		
収穫期間	□		